



静岡県知的障害者福祉協会・広報 発行



静岡県知的障害者福祉協会
令和5年度 事業計画

1 方針

社会に大きな影響を与えている新型コロナウイルス感染症は、いまだに全国での感染が続いている。令和5年に入っても、会員施設・事業所からのクラスター発生の連絡は途切れない。

一方で、政府は、ゴールデンウィーク明けの令和5年5月8日から、新型コロナウイルス感染症を感染症法上の5類感染症に位置付けることを決定し、社会経済活動の再開に大きく舵を切った。

静岡県知的障害者福祉協会（以下「静知協」という。）においても、オンラインにより福祉協会大会や各種研修を実施してきたが、令和5年1月の施設長等研修会は、3年振りに対面方式で開催した。そして、本日の会員総会も令和元年度第1回会員総会以来の対面方式での開催となった。

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の感染状況や社会情勢を踏まえつつ、また、コロナ禍の中で習得したズームなどのICT技術も活用しながら、ウイズコロナの時代の事業活動を展開していきたい。

さて、令和5年度の障害福祉関連施策に目を向けると、4月にはこども家庭庁が設置され、障害児支援施策が厚生労働省からこども家庭庁に移管されるという大きな変化の年となる。現在示されている基本方針からは、障害児支援の位置付けが小さく感じられることから、同庁設置以降の動向には、強い関心を持って注視していく必要がある。

また、障害者総合支援法の改正などを踏まえた、令和6年度報酬改定に向けた動きが集中する年となり、また、1年以上に及ぶウクライナ戦争や円安の影響を受け、諸物価やエネルギー価格の高騰は、会員施設・事業所の経営にも大きな影響を及ぼしていることから、日本知的障害者福祉協会（以下「日知協」という。）や東海地区会と連携し、国に対して積極的な要望活動を展開していく。

さらに、令和6年度からの「第7期障害福祉計画、第3期障害児福祉計画（ふじのくに障害者しあわせプラン）」の策定年でもあることから、国が示す基本指針の改定内容に関心を持ち、静知協からの要望が反映されるよう、障害者施策推進協議会の場合などで積極的に発言をしていく。

大変残念なことであるが、福祉従事者による虐待報道が続いている。社会福祉施設が障害のある方にとって安心安全に、そして豊かに暮らすことができる場所とはなっていないことを示すものであり、障害者差別解消法への対応とあわせ、人権についての様々な観点からの議論が必要である。

静知協では、障害のある人すべてが社会の一員として、社会・経済・文化等あらゆる活動に自由に参画でき、障害者差別のない社会の実現を目指し、中央組織の改編や障害福祉サービス等報酬改定に係る各種施策の改正だけでなく、新型コロナウイルス感染症も含めた社会経済の変化にも注目しつつ、社会福祉事業の安定的経営と障害福祉サービスの質と量の向上、障害のある人の権利擁護などに向けて、引き続き、会員施設・事業所及び関係者ととともに、活動に取り組んでいく。

2 具体的な重要事項

障害のある人が、年齢や個々の障害の内容、程度に応じた、自立に向けての総合的支援が利用でき、地域での生活が可能になるように、発達支援、日中活動支援、生活支援、就労支援、職場定着支援、相談支援、在宅福祉サービスの充実を図るなど、必要な支援を継続して提供できる体制を確保するために、次の項目の研究と協議を行う。

- (1) 障害のある人たちへの人権擁護・差別解消・虐待防止、日常生活及び社会生活の総合的支援、共生社会実現を理念とし、虐待防止についての職階別研修実施など福祉サービスの質の向上や苦情解決制度の適正な運営に努める。また、令和4年度から設置が義務付けられた「虐待防止委員会」がしっかりと機能しているのか、会員施設・事業所の点検を行う。
- (2) 職員研修所などの開催する研修や研究活動を推進し、職員の資質向上に努める。更に、計画相談支援や個別支援計画の質を高めるために、相談支援体制の充実を図る。また、Zoom やグーグル

- フォームなど、ICT（情報通信技術）の習得及びスキルアップのための講習会を開催する。
- (3) 芸術、文化、スポーツ活動への理解と啓発のため、積極的な取組みを図り、これらの活動の実践や成果を記録し広報活動を行う。また、令和5年3月にオープンした「愛護ギャラリー展記念サイト」の周知に努めるとともに、「愛護ギャラリー展カレンダー」を作成、配布し、知的障害のある方々の芸術活動の成果を広く公表していく。
 - (4) 大規模災害への防災対策、危機管理対策、個人情報保護対策の推進に努める。
 - (5) 障害者総合支援法と関連法、障害者の人権擁護に関する各種の法令や障害者差別解消法などに関する研修と情報の提供を行う。
 - (6) 社会資源としての役割を果たすために、各地域で策定される障害福祉計画、あるいは設置されている自立支援協議会に専門的サービス提供事業者として必要な提言などを行い、地域の関係機関との連携を重視する。また、これらの提言などの共有化を図る。
 - (7) 知的障害者支援サービス提供事業者の団体として、サービス提供体制や制度の研究、会計制度の研修を行い、法令順守の質を高め、さらに経営上の課題を把握し、関係機関、団体との連携を図り、必要な提案、要望を行う。さらに政策委員会活動に積極的に参画し、日知協、東海地区会などに各種の提言を行う。
 - (8) 東海地区会が主催する職員研究協議会（10月5日～6日、主管：静岡県）を確実に運営する。また、施設長等研究協議会の開催、運営に協力する。また、静岡県手をつなぐ育成会との各種連携を図る。
 - (9) 人材確保に関する取組として、県や県社協人材センターとも連携して、世話人等業務セミナー＆合同説明会を全県で実施する。また、虐待発生施設・事業所が希望した場合に静知協による施設評価等の実施（会員施設が発生に備え事前申し込みをした施設等のみ）ができるように令和5年度創設に向け要綱等の検討を行う。（必要性の有無も検討）
 - (10) 静知協のホームページや、機関紙「しずおか愛護」について、個人情報の保護対策を十分に講じた上で、更なる充実を図り、情報発信力を強化する。

《新規加入施設》（令和5年4月加入）

指定特定相談支援事業所 さざんか

今年度から入会しました、掛川芙蓉会 指定特定相談支援事業所 さざんかです。

主に知的障がい者の方の相談を請け負っています。利用者さんが自立した生活、社会生活ができるように、意思人格を尊重し、利用者さんの立場に立った相談支援を心掛けています。どうぞよろしくお願いいたします。



相談支援事業所ノエル

初めまして、インマヌエル相談支援事業所ノエルと申します。

事業所名にある「ノエル」はフランス語でクリスマスを意味しております。

クリスマスは、大きな喜びがすべての人に伝えられた日です。私たちは皆様個々の喜びをしっかりとお支え出来るようお手伝いしてまいります。

*他新規加入施設については、次号で紹介させていただきます。

**静岡県知的障害者福祉協会
令和5年度 役員名簿**

(令和5年4月27日～)

役職名	選 出 部 会 ・ 地 域	氏 名	施 設 名	摘要
会 長	—	池谷 修	沼津のぞみの里	
副会長	児童発達支援部会長	仲安 寛元	あさぎり	
〃	障害者支援施設部会長	天良 昭彦	駿豆学園	
〃	日中活動支援部会長	家込 久志	ほっと	
〃	生産活動・就労支援部会長	溝口 弘志	あおばのさと	
理 事	児童発達支援部会 副部会長	杉山 延江	富岳学園	
〃	障害者支援施設部会 副部会長	渡邊 貴則	天竜厚生会 アクシア藤枝	
〃	日中活動支援部会 副部会長	原 邦人	ミルキーウェイ	
〃	生産活動・就労支援部会 副部会長	石井 智賀	ワークセンターやまもも	
〃	地域支援部会長	矢代 啓	オランチ	新任
〃	相談支援部会長	飯塚 友紀	サポートセンター コンパス北斗	
〃	地区代表（東部）	高井 昌弘	みはらしの丘	
〃	〃 （中部）	大澤 将孝	望未園	
〃	〃 （西部）	山田 宗克	松ぼっくり	
監 事	—	古井 慶治	社会福祉士 ふるい後見事務所	
〃	—	深津 喜一	静岡県知的障害者福祉協会 元事務局長	

第 57 回 静岡県知的障害者福祉協会大会 報告

事務局長 増田吉則

令和 5 年 6 月 9 日（金曜日）、第 57 回静岡県知的障害者福祉協会大会は、会員施設・事業所の施設長、管理者、職員、表彰者など、およそ 130 人が参加し、静岡県総合社会福祉会館 「シズウエル」 を会場に、実に 4 年振りの対面で開催されました。新型コロナウイルス感染症が 5 類へと変更になったこともあり、今回は、多くの皆様に、ご来賓としてご臨席をいただきました。

お忙しい中、静岡県 健康福祉部 障害者支援局 局長 石田雄一 様、静岡県教育委員会 特別支援教育課長 高橋和彦 様、(福) 静岡県社会福祉協議会 常務理事 高橋邦典 様、特定非営利活動法人 静岡県作業所連合会・わ 理事長 三輪浜子 様、一般社団法人 静岡県社会就労センター協議会 理事長 山内 剛 様、公益財団法人 静岡県障害者スポーツ協会 専務理事 杉山金吾 様、誠に有難うございました。

なお、空調の効きが悪く、参加者の皆様、記念講演講師の嶋津様には、大変不快な思いをさせていただきました。心よりお詫び申し上げます。

さて、大会は、天良昭彦副会長が総合司会を務められ、家込久志副会長の開会のことばで開会し、大会スローガンは、「駿豆学園」の山田成子さんに発声をお願い致しました。池谷修会長の挨拶に続く職員表彰では、15 年以上施設職員として職務に精励し、知的障害児者の福祉に寄与された 47 人の皆様を代表して、サポートセンターコンパス北斗の中村文久さんに、池谷会長から表彰状と記念品が贈られました。おめでとうございます。

事例報告では、社会福祉法人 和光会 福祉型障害児入所施設 あさぎり の、河合智絵さん、小田木雅斗さん、仲安寛元さんが、入所施設における暮らしやすさについて、利用者及び職員へのアンケート結果などを踏まえての報告を行いました。

また、記念講演は、一般社団法人日本リーダーズ学会 代表理事で、「子どもが変わる 怒らない子育て」などの著者としても知られる、嶋津 良智（しまづ よしのり） 様を講師にお迎えしました。前向きなお話で私たちに勇気を与えてくれました。グループワークを取り入れ、参加者同士で熱く語り合う姿があちこちで見られました。そして、時間の関係で回答が出来なかった多くの質問には、後日書面で回答をいただきました。素晴らしいご講演と丁寧なご対応に心から感謝申し上げます。

なお、今回の福祉協会大会では、Google フォームを用いて質問を受け付けました。これは、10 月 6 日（金）に開催されます「第 60 回 東海地区知的障害関係施設職員研究協議会」の実践報告の際での予行演習として実施したものです。支援スタッフ委員会委員の久保真理さん（安倍学園）、仲亀 涼さん（富士見学園）、塚本啓太さん（わかふじ）、小林 等さん（有永寮）及び研修専門委員の古橋 誠さん（マルカート・ドルチェ）。誠に有難うございました。

結びは、仲安寛元副会長の閉会のことばで、大会は無事に終えることができました。

<大会日程>

日時：令和 5 年 6 月 9 日（金曜日） 10 時 30 分 ～

会場：静岡県総合社会福祉会館 「シズウエル」 703 会議室

次第：

愛護のうた

開会のことば （家込副会長）

大会スローガン唱和

会長挨拶 （池谷会長）

表彰状授与

事例報告 社会福祉法人 和光会 福祉型障害児入所施設 あさぎり

演 題 「入所施設でのウェルビーイングってなんだろう？

『暮らしやすさ』について考える」

発表者 主任 河合智絵 様

主任 小田木雅斗 様
 施設長 仲安寛元 様

*** ** 昼 食・休 憩 *** **

記念講演

演 題 「怒らない技術」
 講 師 一般社団法人日本リーダーズ学会 代表理事
 「子どもが変わる 怒らない子育て」 著者
 嶋津 良智（しまづ よしのり） 様
 閉会のことば （仲安副会長）

<大会スローガン>

- 1 自己決定を尊重した支援を進めよう
- 1 一人ひとりの強みをいかした支援を進めよう
- 1 地域との関係づくりを意識し重要視した支援を進めよう
- 1 虐待防止のための研修や啓発を進めよう
- 1 感染症や災害など、もしもに備えよう

<表彰された皆様=敬称略>

町田浪路（沼津市立あしたか学園）、江川わか江（沼津市立あしたか学園）、
 高橋恵子（いずみ）、福岡一美（いずみ）、瀬野 太（いずみ）、
 森 成子（さしだ希望の里）、原 哲夫（サポートセンターこげら）、
 久保田八重子（駿東学園）、佐藤順子（駿豆学園）、久保田さおり（駿豆学園）、
 斎藤陽子（地域生活支援センターせふりー）、金森沙織（地域生活支援センターせふりー）、
 武藤美帆（沼津のぞみの里）、新井美子（沼津のぞみの里）、岡本小百合（沼津のぞみの園）、
 須崎智子（沼津のぞみの園）、木本大輔（沼津のぞみの園）、野田賢士（沼津のぞみの園）、
 伊藤五郎（富岳の郷）、内田正洋（富岳の園）、上野大輔（富士厚生園）、
 石川章子（富士厚生園）、井口ますみ（静岡県立富士見学園）、小林 拓（富士本学園）、
 豊島 崇文（富士和光学園）、梅澤佑一（みはらしの丘）、芦川 渉（みはらしの里）、
 西山尚幸（ミルキーウェイ）、田村政弘（ミルキーウェイ）、渡辺弘美（悠雲寮）、
 岡崎清美（悠雲寮）、堀田祐世（静岡市心身障害児福祉センターいこいの家）、
 臼井和子（障害者就業・生活支援センターさつき）、
 中村文久（サポートセンターコンパス北斗）、内田佳代（駿遠学園）、阿井優貴子（虹の家）、
 土肥あゆ美（虹の家）、小川喜春（ぼぶら）、増田亜希菜（ルーチェ仰陽）、
 塚本啓太（わかふじ）、近藤智子（ワークすばる）、黒柳秀治（ワークすばる）、
 鈴木秀明（あきは寮）、安田幸彦（菊川寮）、寺田 恵（浜名学園）、
 山崎規予美（緑ヶ丘学園）、匂阪恭子（緑ヶ丘学園）

～ 誠におめでとうございます。～



大会スローガンを読み上げる
 「駿豆学園」の山田成子さん



会長挨拶（静岡県知的障害者福祉協会 池谷 修 会長）



来賓祝辞
（静岡県 健康福祉部 障害者支援局長 石田雄一 様）



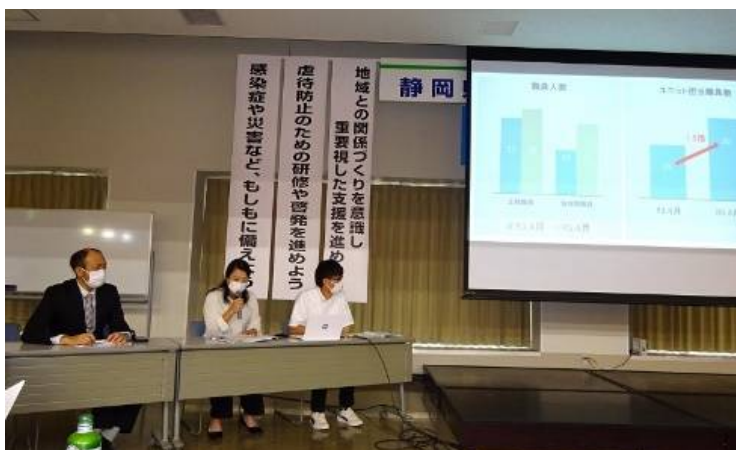
来賓祝辞
（静岡県教育委員会 特別支援教育課長 高橋和彦 様）



ご来賓の皆様

代表として表彰される
「サポートセンター コンパス北斗」 中村文久 様





事例報告を行う、福祉型障害児入所施設 あさぎりの
河合智絵さん（中央）、小田木雅斗さん（右）、仲安寛元さん（左）

記念講演 講師の
嶋津良智（しまづ よしのり）さん



グループワークで
熱く語り合う参加者

令和5年度 施設長・主任者等合同会議 報告

障害者支援施設部会

障害者支援施設部会長 天良昭彦

34 施設から 53 名の出席をいただき、4 年ぶりに対面での合同会議を開催することができました。恒例の部会職員研究集会については、1 泊 2 日で情報交換会も実施するという、こちらも 4 年ぶりにコロナ禍前の従来の方法での開催で出席者の合意を得ました。開催日は 11 月 6 日・7 日、当番幹事施設は中部地区で垂穂寮。会場は静岡グランドホテル中島屋を予定しています。全体会では静岡气象台並びに県の危機情報課の職員の方々においでいただき、気象情報や県内の防災に関する講演を予定しています。研究発表施設は西部地区で袋井学園と赤松寮が担当し、この 2 施設の発表内容に基づく 2 分科会と施設長分科会を実施予定です。その他、令和 6 年度県への要望事項の確認。部会代表支援スタッフ委員、富士見学園の仲亀支援員から、連絡と各施設への依頼事項の提示とともに 10 月 5 日・6 日に開催の東海地区職員研究協議会のシンポジウムの運営にかかわる旨の報告がありました。

諸物価高騰や慢性的な人材不足等、障害者支援施設をとりまく情勢が大変厳しい中、来年度は 3 年に 1 度の報酬改定の年でもあり、適切な情報共有を心掛けていきたいと思えます。

日中活動支援部会

日中活動支援部会長 家込久志

●支援スタッフの活動報告及び活動紹介

- ・令和 4 年度の活動内容について
- ・コロナ禍の中、中々進んでこなかった状況があり、今回は改めて対面での会議の場を設けさせてもらった。
- ・運営の要領について。地域における利用者さんの状況、課題について、人材の育成、スタッフ間の交流など。
- ・6～7 月に ICT 研修を予定している。コロナ禍の中、Zoom など役立つスキルを学び、活かしていこう、という内容。初級、中上級に分けて実施。また、案内を送付します。
- ・支援スタッフの交流の機会を作っていきたい。ICT 研修後にも交流の場を設けていく予定。その際の雰囲気を見ながら今後も交流の機会の在り方について考えていきたい。
- ・静岡県主催の東海地区の研究集会におけるスタッフ協力の依頼があります。
- ・支援スタッフの名簿の更新をお願いしたい。メールにて送付します。(今回、変更できるところは回覧して手書きで修正もしてもらいたい)

●今年度の研究集会について

- ・資料『令和 5 年度 静岡県知的障害者福祉協会 研究集会テーマ』参照。
- ・以前、一泊二日の内容だったが、今回は日帰り研修として 11 月 10 日（金）に実施予定。情報交換会として夕食交流会も予定している。

●東海地区会施設職員研究協議会のお知らせと役割分担

- ・10 月 5 日、6 日に東海地区施設職員研究協議会があります。
- ・会場はグランドホテル浜松。10/5 昼過ぎからスタートし、翌日昼までになる予定。
- ・その際、支援スタッフとして協力できる方がいれば、部会長まで連絡ください。

●県への要望事項について

- ・日中支援活動部会として意見を挙げていきたい。

◆支援スタッフのみの話し合い

●改めて自己紹介をしながら、それぞれの近況や課題に感じているものなど

- ・コロナが 5 類扱いになったが、重度の方もいる中で、対応をどうしたら良いか、迷う状況がある。
- ・職員の専門性を高める必要がある職場の中で、人材不足などの悩みがある。
- ・利用者さんの高齢化にともなう変化に悩んでいる。

- ・サービス管理者の資格を維持するための体制的な工夫を悩んでいる。
- ・相談業務、サービス管理者兼任での難しさ、大変さ。利用者さんの高齢化に伴う入所、退所される方がいて、定員割れ。事業所にスマホを持ってくる中でのルール作りなど悩んでいる状況。
- ・利用者さんの高齢化にともない、通院の支援がとも増えている。
- ・コロナ前の支援の形を知らないスタッフが増えている中での難しさ。支援スタッフの年代が若い世代と上の世代で間隔があいてしまっている中でのコミュニケーションの難しさ。医療的ケアの必要な方が学校を卒業して入ってくるが、看護師の人材不足の問題がある。
- ・家族の方の高齢化が進む中で、どこまでこたえていけるのか。キャンプなど利用者さんの非日常を楽しむ工夫をしている。
- ・自然災害GCPの作成などに取り組んでいる。人材育成についての悩み。
- ・看護師、生活支援スタッフの連携、障害の理解など幅広い知識の習得などに悩み。
- ・利用者さん、その家族がともに高齢化していく中で、退所したり、入所施設へ移動したり…新規に利用者さんが入ってきていない状況もある。
- ・高齢化にともない、生活面の支援が増える一方で作業にも時間をとる必要がある状況。若い利用者さんと高齢化した利用者さんとの必要な支援が異なる難しさ。
- ・重症心身障害者の希望者が増えており、少しずつ対応できるように移行している状況がある。グループホームの支援もある中で、勤務が早番、遅番…シフト労働の大変さ。
- ・支援者不足。福祉分野の経験がない方を採用することもあるが、仕事に難しさを感じて退職されてしまう方も多くいる。サービス管理者の2回目の受講要件が2年間の実務が必要とあり、悩んでいる。
- ・強度行動障害の方が多い中、支援スタッフの異動で大きく体制が変わったことでの混乱。その中で利用者さん側が支援者を見極め、慣れてきてもいる。支援の難しい利用者さんに対して距離をおいてしまうスタッフもいて、人材育成の難しさも感じる。
- ・コロナ前の支援を知らないスタッフが多い中で、伝えていながらやっとなり外出、食事の支援を実施。大変だったが、利用者さんの笑顔を見て、実施できて良かったと感じた。

●まとめ

- ・色々な外のつながりの中で情報共有、情報交換しながら、今後もやっていけたらと思います。

児童発達支援部会

児童発達支援部会長 仲安寛元

令和5年度施設長・主任者等合同会議は、久しぶりに対面での実施となり、通所・入所それぞれに現在の支援に関する現状や課題等が話し合われました。2020年から始まった新型コロナウイルス感染症により、これまで療育活動や生活支援、家族支援が大きく制限されてきましたが、5/8からの5類感染症移行に伴い、「子どもたち一人ひとりの成長のために何ができるのか」を、児童発達支援部会の方々とふたたび顔を合わせて考えることができることに、大きな喜びを感じました。

課題については、職員の人材育成・スキルアップは大きな課題であるとの認識が、各事業所や施設から出されました。新人から3年目といった若手職員が多い一方、中間層の職員が不在となっていること、支援の過程でメンタル不調を訴えたり、燃え尽き症候群のように数年で職場を去ってしまう職員がいたりすることなど、支援の質を担保するためのフォロー体制の強化、働きやすい職場環境の整備が今後さらに求められることと思います。

今年度の研修として、通所部会では、今までオンラインで継続してきた研修を今年度も実施していくことになりました。また、入所部会でも、職員研究集会を4年ぶりに対面で開催することとなりました。日々現場で活躍している職員からの実践報告を、職員と共に共有することで、事業所・施設間の連携や職員のモチベーション向上につなげていきたいと思っています。

地域支援部会

地域支援部会長 矢代啓

地域支援部会では研究集会、ふれあい交歓会、地域移行促進事業について主に検討を行いました。新型コロナへの捉え方が以前とは異なってきている現状、私たちとしては基本的な感染防止は継続した上での臨機応変な行動になるのだらうと思います。今年度予定の研究集会等は対面を基本とし、必要に応じハイブリット方式も取り入れ行っていこうと思います。

研究集会については、事業所によりグループホームの形態は異なる中、重度化、高齢化、支援の在り方について、世話人、生活支援員の業務の区別も変化してきています。多くの世話人の皆さんに参加してもらい意見交換を行いたいと考えています。

ふれあい交歓会について、本来の趣旨と現状が乖離しており、方向性をどのようにしていくかが検討課題となっています。代替え案もしくは事業を取りやめることも視野に入れ今年度答えを出していきたいと思います。

地域移行促進事業について、県の委託事業として昨年2月、世話人等業務セミナー・合同説明会を行いました。結果として、採用に結びついた事業所もありました。どの事業所も人材不足には苦慮している中、この取り組みを続ける中で人材不足解消へ繋げていきたいと思っています。

相談支援部会

相談支援部会長 飯塚友紀

今回の合同会議は、14名のご出席を頂き、久々の参集形式で行いました。主に、1：県への要望書の内容共有 2：第60回東海地区知的障害関係施設職員研究協議会について 3：今年度の施設長等研修会の研修設定についての意見交換や情報共有を行いました。その中で、来年度の報酬改定や新サービスとなる「就労選択支援」に係る内容や相談支援部会としての質の向上を目指せることについて、現状抱えている課題や各圏域での良い取り組みなども意見交換が出来て、それぞれに気付くポイントがあった会議になったと感じています。

今後の取り組みとしては、前年にも同様に必要性を感じた、【各圏域の支援状況や相談支援体制の一覧表】等を作り、これに基づいた各圏域の継続している課題に対する解決に向けた働きかけや課題に対する他の圏域での良い取り組みの紹介ができると良いと考えています。

本年度も活発な部会活動ができるように精一杯務めさせていただきます。皆様からのご指導、ご鞭撻を頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。

生産活動・就労支援部会

生産活動・就労支援部会長 溝口弘志

22施設25名が参加しました。研究集会は、集合で行うことが決まりました。12月上旬に日帰研修をシズウエルで行います。テーマは、「工賃の評価方法」「工賃アップの取組」です。事例発表後にグループワークを行い、各施設で情報共有していきます。普段の実践の振り返りや気づきを促すことのできる研究集会になると思います。

意見交換では、「グループホームを利用している方の通所施設利用中の通院について」や「新型コロナウイルスが第5類に移行した後の感染予防対応について」等、日ごろ感じている課題について話し合いました。

全国の就労分野では、一般企業が法定雇用率を上げるために障害者を雇用し、野菜の栽培を行う。出来た野菜は会社の従業員に配る。農作業等に従事させてはいるが働く視点がなく、流通させる目的もない。給料は払うが、仕事の空き時間が多く、働きたい障害者を働かせない事例が見られます。障害者の働く意味をしっかりと考えていかなければいけません。

10月には東海地区知的障害者関係施設職員研究協議会が浜松で開催されます。生産活動・就労支援部会として授産製品の販売で盛り上げていきます。皆さん浜松でお会いしましょう。

令和5年度 静岡県知的障害者福祉協会職員研修所講座一覧

講座名	回数	開講日		会場(集合場所)	講師
心理学療法 講座	2回	5月31日	水	静岡県総合 社会福祉会館 「シズウエル」	6F 601 会議室 浜松学院大学短期 大学部 教授・ 幼児教育科長・子どもの未 来創造センター長
		7月3日	月		1F 103 会議室 志村 浩二 氏
医療・看護 講座	3回	6月16日	金	静岡県総合 社会福祉会館 「シズウエル」	6F 601 会議室 社会福祉法人小羊学園
		7月21日	金		1F 101 会議室 つばさ静岡
		9月29日	金		6F 601 会議室 施設長・医師 山倉 慎二 氏
性に関する 講座	1回	9月13日	水	静岡県総合 社会福祉会館 「シズウエル」	7F701 会議室 船津クリニック 薬剤師・思春期保健相談士 船津 裕子 氏
障がいのとらえ方 講座	1回	6月7日	水	静岡県総合 社会福祉会館 「シズウエル」	6F 601 会議室 社会福祉法人 ふじの郷 法人本部長 小林 不二也 氏
発達障害の理解	2回	6月22日	木	静岡県総合 社会福祉会館 「シズウエル」	6F 601 会議室 静岡県中西部発達障害者 支援センターCOCO 理事・統括管理責任者 弓削 香織 氏
		7月27日	木		
カウンセリング 講座	3回	6月29日	木	静岡県総合 社会福祉会館 「シズウエル」	1F 103 会議室 常葉大学教育学部心理教 育学科
		7月13日	木		1階 101 会議室 元教授・学科長 杉本 好行 氏
		7月27日	木		5F 集会室
知的障がい のある人の 暮らしと支援 ～制度の変遷、 事例を通して～	児童期	11月2日	木	静岡県総合 社会福祉会館 「シズウエル」	6F 601 会議室 東海大学短期大学部児童 教育学科 元教授 大石 明利 氏
	成人期 高齢期	9月15日	金	静岡県総合 社会福祉会館 「シズウエル」	1F101 会議室 社会福祉法人福浜会 理事長 高橋 和己 氏

第60回東海地区知的障害関係施設職員研究協議会

参加者募集中！

令和5年度（2023年度）第60回東海地区知的障害関係施設職員研究協議会は、静岡県知的障害者福祉協会が主管し、下記のとおり、浜松市において開催されます。

新型コロナウイルス感染症が5類へ移行し、実に4年振りに、情報交換会のある、完全な形での開催となります。

1日目は、公益財団法人 日本知的障害者福祉協会 会長 井上 博 様による「中央情勢報告」、施設種別ごとの6つの分科会、そして、情報交換会です。他県の職員の皆様と心ゆくまで語り合いたいと思います。

2日目の「実践報告」は、講師に、社会福祉法人 佛子園 理事、Share 金沢 施設長の清水愛美 様をお招きし、「ごちゃまぜのまちづくり」と題して、Share 金沢 や B's 行善寺の取組などをお話しいただきます。そして、ファシリテーターは、社会福祉法人 天竜厚生会 理事長 山本たつ子 様をお願いしました。グーグルフォームを利用した質問など、施設種別支援スタッフ委員会による初めての取組もあります。皆様にはスマホをお忘れなくご持参ください。

なお、詳しいプログラムや申込方法は、[協会ホームページ](#)をご覧ください。

NHK 大河ドラマ「どうする家康」の舞台「浜松」で、学び・つながり・絆を深め、明日への活力が湧く研究協議会に参加しませんか。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

1 日 程 令和5年10月5日（木曜日）～6日（金曜日）

2 会 場 『グランドホテル浜松』

〒432-8036 静岡県浜松市中区東伊場1丁目3-1

3 大会テーマ 『フォー スマイル 原点回帰 私たちがなすべき支援とは 』